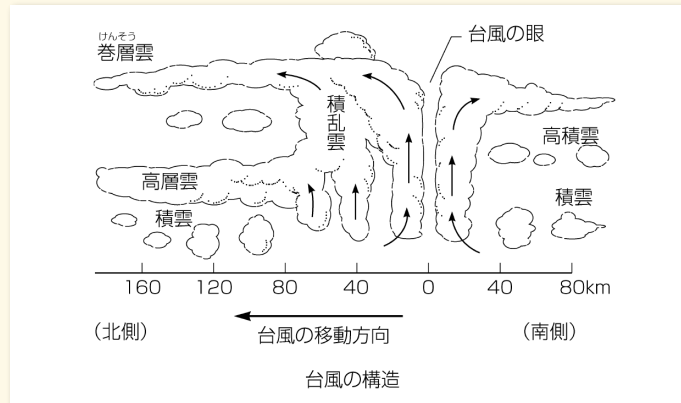


台風の構造・台風の暴風域

台風の構造

台風を中心付近の眼の周りは、非常に発達した雲に取り巻かれ、暴風域になっています。眼の外側には、激しい雨が降り続く積乱雲があります。



台風の暴風域

風速25m(秒速)以上になると考えられる範囲は、右の図では赤色の線で表示されています。台風が接近してくると、この赤色の線の内側のすべての地点で、暴風が吹くと誤解されることが多くあります。この赤色の線の内側は、暴風が吹くと予想されるわけではありませんが、台風が動いてくると考えられる範囲(白色の破線内)と関係させて見ていく必要があります。

例えば、台風が中心が白色の破線内ギリギリのA地点に進んだとすると、A地点を中心とした範囲が暴風になるものと予想されるということになります。

したがって、暴風が吹くと予想されていたB地点は、台風がA地点へ進んだときには、暴風の危険からは免れる可能性が高くなります。台風の進路によって暴風になる可能性があるということで、暴風の予想範囲には、こうした意味があることを理解しておきましょう。

気象庁は、台風が接近してくると、72時間以内に台風の暴風域に入る確率が0.5%以上ある地域に対して、「暴風域に入る確率」を発表しています。

